

戦略計画に関する住民説明会での意見、質問について

平成 23 年 1 月 18 日～2 月 1 日に市内 10 小学校区で住民説明会を開催しましたところ、延べ 1,241 人の方にご出席いただきました。

多くの方々からいただきました貴重なご意見、ご質問について、その主な内容をお知らせします。

※ 文中の、(問) は、説明会に参加された方々からのご質問、(答) は、ご質問に対する市の説明内容です。また、(意見) は、参加された方々からのご意見です。

1. 戦略計画全般に関する意見、質問

○具体的な内容の記載について

(問) 江南市戦略計画の内容が抽象的な説明が多すぎ、具体的な実施計画が全く示されていません。平成 20～22 年度の評価を、市民調査の数値結果に依存し過ぎており、その設問も、抽象的なものが多く、あまり意味がないと感じられます。改訂基本計画では、もっと具体的な成果・目標を示すべきだと思います。

(答) 今回は、基本計画について見直しを実施しました。具体的な実施計画については、施策と事務事業の評価結果を参考に策定した「部門の戦略計画」に明記され、ホームページに掲載されています。また、前期計画期間 3 年間の評価結果を踏まえ、とりまとめたものが、「主な成果」や「主な今後の課題」になっています。アンケートの内容については、平成 18 年に実施したアンケートと同一の条件で、どのように変化したかを比較するため、同じような内容の設問となっています。

(意見) 成果報告については、どのようなデータに基づき、どのように P D C A をしたのかを報告書に明記されると良いと思います。また、残された問題に反省などを入れて報告するのも良いと思います。

○計画の周知について

(問) 今日、この説明会に参加して、初めて「江南市戦略計画」というものを知りました。市民に伝わっていないと思いますが、どう考えますか。

(答) 広報やホームページで P R をしておりますが、これからもいろいろな機会を捉えて周知を図っていきたいと思います。

2. 基本計画の見直し方針に関する意見、質問

○江南市の強みについて

(問) 江南市の強みについて説明してください。

(答) まず1つ目は、恵まれた地形・豊かな自然です。温暖な気候・風土、木曾川沿いの豊かな自然、強固な地盤など、恵まれた生活環境が整っていることです。2つ目は、大都市名古屋に近く便利な立地です。名古屋市から20km圏に位置し、市内には名鉄犬山線の江南駅・布袋駅の2つの駅があり、名古屋駅まで約20分の好立地にあります。3つ目は、豊かな歴史と文化です。江南市は戦国武将ゆかりの地であり、市内には曼陀羅寺、音楽寺などの文化資源が存在しています。4つ目は、多くの協働パートナーの存在です。自治会がきめ細かく組織されており、地縁を基盤にした活動の体制が整っています。5つ目は、構造改革の取組です。平成16年度からスタートした構造改革の取り組みにより、「成果主義」・「市民志向」の行政経営が浸透してきています。これら5つが江南市の強みです。

○「江南市戦略計画における目標達成状況把握のための市民調査」について

(問) 「江南市戦略計画における目標達成状況把握のための市民調査」の結果についての調査概要によると、回収状況について、発送1,800票、回収825票、回収率45.8%と掲載されています。このような低い回収率をもって、今回の調査結果を有効と判断しても良いのですか。また、このような結果を利用して各分野の満足度が前回の調査からどのように変化したかを測定してもよいのですか。

(答) この調査においては、統計学上、95%の信頼度を得るために、回収数が600件あれば良いということに基づいております。もちろん、1人でも多くの方から回収したいと思っておりますが、今回は825件回収できていますので、信頼できる結果であると考えております。

3. 目標フレームに関する意見、質問

○財政について

(問) 江南市の財政は安定しているのでしょうか。歳入の半分は市税ですが、その市税については8年間で63億円の減収見込みとなっています。そして、市債については8年間で37億円の増加と見込まれています。大切な市税が減る一方で借金を増やしていくことは、大きな危険を残していくことになるのではないのでしょうか。交付税の見直しとあわせて、財政運営上どういう配慮がされているかを教えてください。

(答) 市税については、経済動向により推計をしており、平成 24 年度からは緩やかに回復していくと見通しています。市債には、地方交付税で補填されるものがあります。市債の借入をする場合は、地方交付税措置されるものを優先的に選択していきます。財政運営については、できる限り依存財源に頼らず、自主財源を確保しつつ、市民サービスを提供していきたいと思えます。

(問) 江南市もこのままでは夕張市の二の舞になるのではないかとも思えますが、どうでしょうか。

(答) 平成 20 年度以降、国の指示により算出が義務付けられました「健全化判断比率」という指標がありますが、江南市はその基準値をクリアーしていますので、現状では財政は健全であるという判断をしています。しかし、依然として厳しい財政状況ではありますので、今後も行財政改革などを行い、収支バランスのとれた財政運営をしていきたいと考えております。

(問) 修正前の財政計画では、地方交付税が急速に減額される見込みが示されていましたが、修正後では減額のペースが非常に緩やかになっています。これはどうした理由なのですか。地方交付税が修正前のように減額されれば、市債が増えるか、住民サービスが減少するか、高額になるということですか。そもそも依存財源に依存した形で市の財政を考えることは、危険が大きいのではないですか。

(答) 市税の増減と地方交付税は連動しており、市税の増加に伴い、地方交付税は減額となります。計画では、市税は平成 23 年度までは 22 年度の見込額のベースを踏まえ、24 年度以降については緩やかに上昇すると想定し、その結果、地方交付税も緩やかに減少しているものであります。今回の計画の見直しで、景気の後退による市税の減収を考慮しており、その財源調整として地方交付税を増額していることから、歳入が一方向的に減額にならないと考えられます。従いまして、地方交付税の減額により、住民サービスが低下するということには、直接的には繋がりませんが、引き続き行財政改革を行い、健全な財政運営を図り、住民サービスの低下を招かないように努めてまいります。

依存財源の主なものは、市債と地方交付税であります。市債の借り入れに当たっては、後年度に地方交付税措置されるものを優先的に借入れ、地方交付税措置されない市債については、極力借入を控えていくように考えております。従いまして、計画では、地方交付税に頼った財政運営から、自力で確保できる財源での財政運営を目標と定めており、この達成に努めてまいります。

(問) 平成 26 年度に、投資的経費が修正後突然、約 10 億円も増額されています。これは、どういう理由からですか。

(答) 主な要因は、投資的経費の中でも大きな割合を占める布袋駅の鉄道高架化整備事業です。この事業につきましては、名鉄と県と協議をしながら事業を進めており、前回の計画から変更している部分もあります。そのため、現在の計画で事業費のピークをむかえる平成 26 年度は、前回計画と比較して投資的経費が増加しております。

○土地利用について

(問) 木賀東地区、布袋北地区は市街化調整区域が多く、家を建てようとしても土地を見つけれない状況です。市街化区域を拡大して、家が建てられるようにしてほしいと思います。

(答) 市街化区域となるには県の認可を得なければならず、そのための道路整備や宅地の整備などといったいろいろな要件を満たしていく必要があります。木賀東地区の一部については、将来的に市街化区域にしていきたい考えはありますが、平成 29 年までには難しい状況です。まずは、布袋駅の東側及び江南厚生病院周辺の 2 つの地区について整備していく予定となっております。

4. 基本計画に関する意見、質問

○目標の達成状況について

(問) 各部門とも非常に高い目標達成率であると思いますが、この結果は誰が努力をしたことによるものと考えていますか。各分科会長からお聞きしたいと思います。

(答) <第 1 分科会長>行政も頑張っていると思いますが、地域の方も防犯パトロールやごみの分別指導、防火訓練への参加等、それぞれ努力をさせていただいております。こういった、市民の方の協力の積み重ねにより、満足度が向上したのと考えています。

<第 2 分科会長>行政の努力、施設の努力、社会福祉協議会の努力などが大きいと思います。一方で市民の役割については、ボランティアの方などが果たしている部分はありますが、まだ足りないと考えています。これからは、市民が何をすべきか、どんなことをしたら満足度が上がっていくかを考えていかなければいけないと思います。

(問) 目標が達成できなかった指標については、今後どのようにしていくつもりでしょうか。

(答) 達成できなかったことにつきましては、「主な今後の課題」としてご報告させていただきました。それらについては目標値の下方修正はせず、現在設定している目標値に近づけ、超えていくことをめざして、今後事業を進めていきます。

(問) 指標については、「江南市戦略計画における目標達成状況把握のための市民調査」の結果ではなく、もっと具体的な数値を用いたものとするべきではないでしょうか。

(答) 指標には、個別の事業の進捗状況を指標としているものもあります。

【生活環境、産業分野】

○防災・地域防犯・交通安全について

(問) スクールガードのボランティアで児童の送迎をしている時、通学路となっている歩道橋が凍結し、児童やスクールガードの方が転倒する場面に遭遇しました。凍結の恐れがある場合、跨線橋には融雪剤が撒かれますが、歩道橋にも同様に融雪剤を撒いていただきたいと思います。

(答) 県道に架かる歩道橋については、県の管理下にあるため、歩道橋凍結時の安全対策として融雪剤の撒布対応について県に相談し協議していきたいと思います。また、歩道橋が通学路となっている場合は、教職員へも融雪剤を撒くように対処していきたいと思います。

(問) 予想されている東海地震など、有事の際に対応できるボランティアセンターの体制はありますか。他の市町村には行政とボランティア組織との間で協定が結ばれている例もあるとのことですが、江南市にはそういったものがありますか。

(答) ご指摘のとおり、いつ大きな地震が発生するかわからない状況の中、市では防災計画をつくり、災害に対応できる体制をとっております。ボランティアセンターについては、市と社会福祉協議会の連携をとりながら対応していきたいと考えていますが、災害時はボランティアの方の協力もさることながら、市民の皆さんのご協力が大切であると思いますのでよろしくお願いいたします。

○市民生活について

(問) 江南駅付近に整備された無料自転車置き場が駅前から遠すぎると思いますが、駅前に整備するなどの改善策はあるのでしょうか。

(答) 放置自転車対策で整備された無料自転車等駐車が駅周辺にはいくつかあります。駅前には民間の有料自転車預かり所がある中、駅前にこのような無料の施設を整備しますとこれらの生業で生計を営んでいる方に対する新たな問題が発生いたしますので、駅前に駐輪したいということでありましたら、民間の有料自転車預かり所を利用させていただきようお願いいたします。

(意見)「誰もが公共交通により市内の必要な場所に行くことができ、便利に暮らしていると感じる市民の割合」の指標の目標値が80%から25%に修正されています。おそらく、実績がそれぐらいだったから修正したのだと思いますが、これは江南市がいかに不便かということを表していると思います。

○産業振興・雇用就労について

(問) 商店街の活性化についてどのようなことを考えていますか。

(答) 販売促進や空き店舗活用に対しての補助制度、高齢者が身近な買い物ができる環境づくりについて、商工会議所と連携しながら考えていきます。

○ごみ減量・処理について

(問) 57運動は現在、どこまで達成できているのでしょうか。なぜ、いつまでも57グラムを減量していかなければならないかを説明してください。

(答) ごみ減量57運動は、平成8年の市民一人一日当たりのごみの量の10%を減らしていこうという目標を掲げた運動であります。江南市はリサイクル率が非常に高いまちであり、直近のデータでは市民一人当たりのごみ排出量は、少ない方から数えて県下35市中第3位、リサイクル率については第1位となっています。57運動を引き続き行っておりますのは、1市2町で運営しているごみ焼却場を効率的に延命していきたいこと、そして、ごみの量を減らすことで一部事務組合に対する江南市の負担金を少しでも減らしていきたいということが理由でありますので、減量に努めていただくようご協力をお願いします。

(問) まちの中のことを進めるに当たっての問題として、最近増えている単身者用マンションに住んでいる方との関係がうまくいかないということがあります。特に住民票を江南市に移していない人は、例えばごみ当番などで協力が得にくい状況です。こういった方をどう巻き込んで協働したらよいか、行政としてはどう動かれるのかをお聞きしたいと思います。

(答) マンションの管理会社には、入居者に地域の協働について説明してもらうように指導をしています。また、例として挙げられましたごみの分別については、江南市は愛知県下でリサイクル率が1位となっております。今後もこれを維持するため、単身者の方にもご協力をいただける方法を地域と一緒に考えていきたいと思っています。

【健康、福祉分野】

○高齢者福祉について

(問) 最近、老人社会の中での孤独ということが言われています。しかし、独居老人の見守りについては、一方で個人情報の保護という問題があり、どんな生活をされているのか、近所の方や地区の役員の方でも分からないという状況です。そういう独居老人の方のお世話というと、民生委員の方がやっていらっしゃるんですが、全て民生委員の方にお任せで良いのか、という思いがあります。そんな状況の中で、地域協働を進めていくにあたり、まちの役員の方々とどう連携するのか、近所とどう付き合っていくのか、アドバイスをいただきたいと思います。

(答) 現在、市内には独居老人の方が約 3,700 人いらっしゃいますが、市内でも年間 10 人程の方が亡くなっているという状況です。これらの方々についての安全対策としましては、民生委員による見守りが主な活動であり、現在、そういった独居の方を含め約 1,300 世帯を見守っていただいています。民生委員の方に作成していただいた独居老人の方のリストがありますので、民生委員を中心に、社会福祉協議会、行政と一緒にやって見守っていきたくて考えております。また、地域の方の見守りも非常に大切なことと考えるので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(問) 現在、市内には 5,600 人の認知症患者がいます。高齢化社会の進行に伴い、患者数はさらに増えていくと思いますが、江南市には、いわゆる「もの忘れ外来」のある病院がなく、介護者を支えていく地域マップもありません。「もの忘れ外来」を受診する際は一宮市まで行かなければならず、特に車の無い家では家族の方が大変な思いをして連れて行っているという状況です。市議会でも「もの忘れ外来」についての質問があったようですが、市の答弁は「尾北医師会に伝えている」という内容にとどまっていました。市として、もっと支援してほしいと思います。

(答) 市では、地域包括支援センターと協力して、認知症サポーター養成講座などを開催し、認知症についての基礎知識や予防効果について啓発しており、平成 22 年 12 月までに 52 回開催し、1,443 名の方にご応募いただきました。また、認知症の相談については、地域包括支援センターを中心に、できる限り早期に受診していただくようお願いをしています。

ご指摘のとおり、江南厚生病院には「もの忘れ外来」がありません。病院に要望はしておりますが、医師の確保が難しいということです。今後は尾北医師会にも設置を要望していきます。困難な状況ではありますが、なんとか設置できるよう努めていきます。

○子育てについて

(問) 「延長保育などの保育サービスを受け、安心して子育てしていると感じる市民の割合」という指標について、平成 29 年の目標値が 50% となっていますが、目標を 100% としていただいたうえで、早く達成していただきたいと思います。

(答) 目標値については、少しでも 100% に近づけていけるよう、学童保育の延長や施設の充実等の施策を実施してまいりたいと思います。

○障害者福祉について

(問) 将来像として掲げる「江南市の地域社会のしくみ だれもが主役、みんなで築く、みんなの郷土」というものが、障害者や外国人を含めた、江南市に住んでいるすべての人が主役であるということを前提としているのであれば、そういった方々は支援をする対象ではなく、同じ市民として共に江南市を築いていく仲間であるという意識がまず必要であり、そのうえでの、いろいろな支援であると思います。他市では、障害者と健常者とのつなぎ役を育成し、地域で障害者の就職を支援する体制を地域ぐるみで整えた事例もあります。江南市は地域ぐるみで支援するなどの考えがあるのかお聞かせください。

(答) 戦略計画の指標に「障害者の雇用率」というものがあります。現在、目標は 1.8% であります。実態については、1.51% という結果になっています。この結果を見ても、障害者の雇用がなかなか進んでいないというのが現状であります。障害者の雇用については、ハローワーク、市、施設の皆さんと協力しながら、事業者の方に職親制度を活用していただき、障害者雇用の向上に努めていきたいと思えます。障害者の方も同じ市民であり、主役ということで考えています。市と障害者施設が一体となって障害者の相談を受け、それぞれの方に応じた福祉サービスを実施していきたいと思えます。

○健康づくりについて

(問) 「休日急病診療所の受診者数」と「救急搬送件数」の指標の目標値については、各年度とも同一の数値が設定されていますが、実績値が目標値よりも多くなればこの指標は達成できていると考えれば良いのですか。

(答) これらの指標については、平成 20 年の実績値を基準にそれぞれの目標値を設定しています。「休日急病診療所の受診者数」については 2,200 人、「救急搬送件数」については 4,000 件を維持していくことを目標としています。これらの実績値が大きくなれば、市民の皆さんの健康が損なわれている状況と捉えられますが、一方では、軽度の病気を受け入れる休日急病診療所の受診者数が多くなれば、第 2 次救急医療機関として重篤患者を受け入れている江南厚生病院の負担軽減につながり、望ましい状況であると考えています。

(問) 今後の課題に「健康診査、各種がん検診の受診率の向上」とありますが、どのように考えているかをお聞かせください。

(答) 健康診査、各種がん検診の受診率の向上については、肺がん、大腸がん、乳がんなどの各種がん検診の受診率が現在 20%強となっていますので、がん検診の受診率を上げていきたいと思えます。

○保険年金について

(問) 75 歳以上の後期高齢者は江南市が実施している人間ドックの対象者から外されています。この点について、市はどのように考えているかをお聞かせください。

(答) 国民健康保険の人間ドックの対象については、75 歳未満であります。愛知県後期高齢者医療広域連合では、基本的に全県下統一して 75 歳以上の後期高齢者について、人間ドックを実施しないということであり、江南市もこれに従っていますので、ご理解いただきたいと思えます。

【都市生活基盤分野】

○市街地整備について

(問) 成果として、「江南駅付近の交差点改良工事や交通規制の変更により、江南駅前広場を通過する車両が減少し、交通混雑が緩和された」とあるが、どのように緩和されたのか具体的な数値などで説明してください。

(答) 平成 17 年度の交通量調査では、駅前広場を通過する車両台数は 8,850 台でしたが、江南通線と本町通が交わる市神社の交差点改良工事を行い、新たに信号機が設置され、朝日町で一方通行の交通規制がされていたところが相互通行へと変更されたことにより、平成 21 年度の交通量調査では 6,500 台に減少しました。

(問) 昨年、江南の駅前にできたマンションの入居率が 40%程度という話を聞きました。これは、江南の駅の魅力、江南市のまちに魅力がないということではないでしょうか。この現状を打破する方策として住宅地の実情にあった道路整備をする必要があると思えます。道路整備のスピードアップを図るためには、土地買収を民間の不動産業者に委託することや、道路の拡幅のために土地を提供した市民に対しては、その土地にかかる固定資産税・都市計画税を減免するなどの方策が考えられます。この点について市はどのように考えているかをお聞かせください。

- (答) 中心市街地における道路拡幅を伴う道路整備については、建物の補償が必要となります。補償については莫大な費用がかかるため、財政状況を見ながら優先度の高いところから整備していきます。マンションの売れ残りの状況については、江南市だけの問題ではなく全国的に見られる傾向であり社会経済状況が不安定であることが要因の一つではないかと思われます。減税については、自立したまちづくりができてから取り組むべき課題と考えています。
- (問) 現在、江南駅前広場を名鉄タクシーがタクシーの待機場所として利用していますが、今後どのようにしていくのかをお聞かせください。また、市の土地開発公社が所有するロータリー南側の土地は、賦課金が大量に貯まっていると思います。地下道の口をコンクリートで塞いだことについても、地権者には市役所からその後一切相談がなく、タクシーの立ち退きについての話も一切ありません。今後、市役所がどうされるのかはっきりとした道筋を教えてくださいたいと思います。
- (答) 駅前の改善事業については、江南駅にエレベーターが設置されたこと、そしてそれに伴い、障害者の方がタクシーや自家用車から乗り降りしやすいように駅前広場をバリアフリーにすることに取り組みました。以前、タクシーは歩道を横断して、駅の横で乗降をするという形態でしたので、駅前広場の中にタクシー乗り場を作り、あわせてタクシーの待機場所も設けています。ただ、広い駅前広場ではないため、いろいろな問題や課題があり、駅前周辺の関係者の方々にご協力いただいているという現状があります。それぞれの問題や課題を検討して皆さんにご相談しながら進めていきたいと思っています。ロータリー南側の土地については、経済成長が良好であった時期に大きな都市計画道路などを整備するような計画がありました。しかし、今回の戦略計画の見直しの中には具体的な計画はお示ししていませんが、現在進めている布袋の鉄道高架化事業が完了した後は、新たな計画を立て、順次進めていきたいと思っています。
- (問) ある日突然地元にも相談もなく、江南駅前の横断歩道がなくなりました。そして、ある日突然名鉄のタクシーが駅前のロータリーを占領しました。駅前の広場は江南市の資産であるため、市民全員で利用するのが本来のあり方ではないのでしょうか。私たち市民が駅前からの立ち退きを強いられ、犠牲を払って作った市民の広場です。これを駅前に住む市民にも何の説明もなく、このように整備を進めることをどのように考えているのか説明してください。
- (答) 今後は良く皆さんと相談していきながら進めてまいりたいと思います。タクシーの待機所としての広場の使用については、複数のタクシー会社からなるタクシー組合から、行政財産目的外使用の届出を提出していただき、その使用料の算定に基づいた使用料金をいただいています。

(問) 布袋地区の住民は、布袋駅の鉄道高架化に多大な期待をしております。江南市は、この事業についてどんなことを考えているのか、どんなことができそうなのかをお聞きしたいと思います。

(答) 現在、仮駅舎を造りまして、これから仮プラットフォームを造っていく予定となっております。いろいろな問題がありますが、愛知県と共同し、より良いものとしていきたいと考えております。

(問) 現在布袋地区では、布袋駅鉄道高架化事業、駅西地区区画整理事業、駅東地区再開発事業が計画され、進行しています。今後それぞれの事業は、何年位で進み、それぞれ市に負担はどれくらいの金額になるのですか。

(答) 布袋駅鉄道高架化事業

- ・完了予定年度 平成 27 年度
- ・総事業費 188 億 7,000 万円
うち、市負担額 49 億 8,147 万円
(平成 21 年度までの支出額 4 億 4,416 万 6 千円)

駅西地区区画整理事業

- ・完了予定年度 平成 27 年度
- ・総事業費 86 億円
うち、市負担額 60 億 9,080 万円
(平成 21 年度までの支出額 51 億 6,790 万 4 千円)

駅東地区再開発事業

事業の手法を組合施行による実施とし、事業の完了を鉄道高架化事業完了に合わせており、平成 27 年度を予定しております。

総事業費は概算で約 6 億円、うち市の負担額は 3 億円を少し超える額と見込んでおります。

(問) 布袋駅鉄道高架化事業、駅西地区区画整理事業の両事業ともに、平成 27 年度に完了できるのでしょうか。また、完了年度が延びた場合、事業費が膨らむのでしょうか。

(答) 鉄道高架事業においては、仮線路の関係で現在は当初計画よりも遅れています。計画の平成 27 年度に完了できるよう鋭意努力していきます。なお、区画整理事業につきましては、事業用地内に鉄道高架事業用地が含まれているため、鉄道高架事業と同様に平成 27 年度の完了となるものです。

また、両事業ともに、完了年度が延びた場合でも、事業費が膨らむことはないと考えています。

(問) 駅西地区区画整理事業において、完了年度が延びた場合、使用収益の開始がかかった土地の利便性等に支障を来たすと思われませんが、それについて補償はあるのでしょうか。

(答) 事業を進める上でやむを得ず延伸した場合、土地の利便性等に支障を来たすことについて補償はありませんので、ご理解をお願いします。

(問) 布袋周辺の整備にどの程度の市費を投入するのでしょうか。

(答) 布袋周辺の整備には、鉄道高架事業に関連し、側道及び鉄道との交差道路整備や駅前広場整備が必要となります。

布袋周辺における事業費としましては、19億519万4千円となります。

そのため、鉄道高架を含めた事業費としましては、68億8,666万4千円となります。

○道路について

(問) 野白町野白周辺（スーパー三心がある辺り）の道路は、交通量が多いにもかかわらず歩道が無く、危険と感じます。

(答) 歩道をつくる計画は都市計画道路や主要市道に限られており、現在は江南駅周辺地区について順次進めております。ご指摘の道路に歩道を設置するためには住宅用地を購入する必要があり、膨大な費用が必要なことから、難しいと考えます。

(意見) 道路整備の順番が、伝馬町、朝日町、寺町、本町通と聞きました。現状を見てみると、伝馬町、朝日町、寺町が対面通行になっています。本町通だけが一方通行となっています。街の中心部であるため、もし可能であれば本町通の北側100メートルを買収し、対面通行とすれば利便性が向上するので、本町通を優先順位の位置づけを上位にさせていただきたいと思えます。

○公園緑地について

(問) 木曾川の河川敷を、キャンプ場などとして、もっと利用して欲しいです。

(答) 現在、「緑の基本計画」を策定しておりますが、その中で【守る・活かす・創る・繋ぐ】という4つの視点から緑化の促進を図っていくこととしております。

(問) 指標の平成22年度目標値について、「地域で管理されている公園緑地などの数」が30箇所となっています。飛高中町に、町で土地を借りている遊園地がありますが、ここはこの指標の件数の中に入っているのでしょうか。

また、2年ほど前に高屋町にできた都市公園を見て、とても羨ましく思いましたが、そのような公園は今後も増えていくのでしょうか。

(答) 飛高中町の広場のような、地元で借りている公園等については、地元で管理をしていただいております。市では管理しておりません。また、市のほうで管理している「都市公園」については、なるべく地元で管理していただくようお願いしており、そうすることで地域でより愛していただける公園となってもらいたいと考えております。なかなか難しいことではありますが、少しでも地元の方が管理に関与していただける公園等を増やしていきたいと思っております。

(問) 一人あたりの都市公園面積が増えたことが成果として挙げられています。また、修正した指標として「地域で管理されている公園緑地などの数」の目標値が上方修正されています。都市公園の網がかかっていない公園は所有者の意思により無くなってしまいうこともあるため、さらに増やして欲しいと思っております。

(答) 公園の増設については、用地を購入しなければならないため、難しい状況です。既存の公園、広場、遊園地、児童遊園などをPRしながら、運用していきたいと思っております。

(意見) 雑木林を保護するような形で、憩いの場を作っていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○下水道について

(問) 下水道が整備されると水道料金が倍になるのですか。

(答) 水道料金より少し安い程度の料金を下水道使用料としていただいておりますので、水道料金とあわせると、事実上、現在負担している水道料金の倍となります。なお、下水道使用料の料金体系については近隣市町とのバランスを保っておりますので、特段に高いということはありません。

○治水について

(問) 治水関係の平均達成率が 50%になっています。最近の集中豪雨の浸水被害に対する解決方法について、具体的にどのようにお考えかをお聞かせください。

(答) 浸水被害に対する治水対策については、新川流域、日光川流域に分けて対策をしています。それら以外にもいろいろな施策を実施していますが、最近のゲリラ豪雨には対応できていないのが現状です。そのような中、新川流域については、青木川放水路に繋がる河川の越流分の雨水を、一時的に調節池に貯め、そこから青木川放水路を通じて木曾川へ放流しています。また、江南市総合治水計画の中では、市民の皆さまに浸透枘の設置、透水性舗装の協力をしていただきます。雨水貯留施設の整備などについては浸水被害状況を踏まえ、優先度の高いところから整備してまいりたいと思っております。

【教育分野】

○学校教育について

(問) 主な成果として「中学校区を単位とした小中学校により、地域ボランティア活動やあいさつ運動などの啓発、情報交換、実践活動等を行う上で、学校、家庭、地域の連携を図ることができたこと。」とありますが、地域ボランティア活動の実態として、どんな活動が行われきたのか、また、あいさつ運動の具体的な実践は、どのように行ってきたのかを教えてください。

また、地域安全パトロールなどは、参加者の高齢化も目立ち、むしろ減少傾向にあるとさえ実感しています。「地域の連携を図ることができた」とされていますが、どんな方法をとったのかを知りたいと思います。これらボランティアに対して、市は強力なバックアップをする体制を整えるべきであり、そのためにはどんな方法があるのかなど、具体的なことを計画の中に盛り込むべきだと思います。あまり数字に囚われるのではなく、具体的な対策を教えてくださいと思います。

(答) 市内では「放課後子ども教室」や「職業体験」など、地域のみなさんがいろいろな形でボランティア活動に参加していただいています。子どもたちの登下校や地域の活動に参加していただいている方に伺いますと、校下ごとでボランティア活動の出来上がってきた過程がかなり違います。地域の大人たちが子どもたちのために活動をしようとして団体を立ち上げたり、学校が地域に出向き、地域の方に協力を求めて活動が始まったりしています。今後も、他市町の活動でよい事例があれば取り入れていこうとも考えています。

また、各中学校区には生徒指導推進協議会があります。その会には、PTAの代表者や民生委員、区長など、地域の代表の方が参加され、それぞれの地域の情報を交換しながら、子どもたちのためにできることを話し合っています。

(問) 地域づくりは人づくりにあると思います。子どもの教育のために、学校教育に力を入れていただきたいと思います。親も子も教育することが必要です。全体目標の指標「学校・家庭・地域の協力により、子ども一人ひとりに学力、体力、社会性、人間性が身につけていると感じる市民の割合」については、もっと成果が上がるよう取り組んでほしいと思います。

(答) 全国学力・学習状況調査によると、良い状況にある子どもたちの生活を調べると、一番は、「毎日朝食を食べている」ことが挙げられています。また、「学校の規則を守っている」、「地域の行事に参加している」、「あいさつがきちんとできる」など、社会性を身に付けた子どもは、学力、体力が共に優れている結果が出ています。勉強以外にも、学校と家庭、地域が協力して、社会性を育てることが大切だと思います。

(問) 教育分野の全体目標の平均目標達成率が 77.4%、個別目標の平均目標達成率が 68.3%との説明がありました。学校教育のどこに目を向けて判断しているかによっても達成率の見方が変わってくると思います。たとえば、日々行われている学級の授業がどのような条件のもとでできているのかに関心を持っています。指標には学級編成基準というものを設定してありません。市内の小中学校で実施されている学級編成について、市はどのように考えているのでしょうか。学級編成について、国も来年度からは1年生に限り35人学級にすることになりました。全国の約80%以上の県では、すでに35人学級に取り組んでいこうとする努力をしているそうです。この地域では、それをどのように受け止めて進めていこうとしているのかをお示してください。

(答) 教職員は子どもたちの可能性を伸ばし、広げていくために、条件を整えていくことが最大の使命だと思います。学級編成については、愛知県はもうすでに小学1年生・2年生、そして中学1年生を35人学級で編成しています。江南市は、指標の目標値は達成できていませんが、より適切に指導ができるように、市の費用で教員の増員をしています。学校補助教員、特別支援学級等支援員、養護教諭、心の教室相談員の学校配置により、少しでも良い条件の中で、たくさんの方が子どもたちの教育に携われるように努めてまいります。

○生涯学習について

(問) 参考資料を見ると、生涯学習の「市役所の役割」に、図書館の充実ということが書かれていますが、近隣市町の図書館と比較しますと江南市の図書館は充実していないのではないかと思います。どういう方向性で図書館を充実していくのかをお聞かせください。

(答) 図書館の建設については以前から検討をしておりましたが、現在は一時中止した状態であります。このような中、いかに充実を図るかについては、今ある施設をいかに有効に使用するか、また、新しい図書館を建設していくのか、それとも分館方式を採用するのかなど、いろいろと検討していきたいと思っております。

(問) 昨年、江南市は愛知県でトップを切って男女共同参画都市宣言をしましたが、何が変わったのか疑問に思います。他市よりずば抜けた施策が実施されるのでは、と思いましたが、特に無いという状況です。今後何か考えていますか。また、指標「男女共同参画講演会やセミナーなどへの参加割合」には60.5%という基準値が示されていますが、これはどこから出てきた数値なのですか。参加した感じではいつも半分ほどしかいないように感じます。

(答) 男女共同参画基本計画を策定したところですが、今年度改めてアンケートをとりました。確かに進み具合は遅れているとのご意見もございますが、今後どのような方法をとれば市民の皆さんに男女共同参画意識が浸透していくのか考えていきたいと思っております。

なお、指標の基準値につきましては、男女共同参画セミナー、男女共同参画のつどい、家庭生活自立講座すべての参加者数をデータとして用いております。

○文化・交流について

(問) 最近、愛知県指定文化財「今市場の獅子芝居」の伝承者が亡くなられ、後継者がいない状況と聞いています。無形文化財に対して、市はどのように保護していく考えを持っていますか。

(答) 「今市場の獅子芝居」については、県指定の文化財です。何とか後継者を見つけていただきたいと考えております。県も、すぐに指定解除はしないとも言っております。

文化財の保護については、皆さんのご協力がなければ難しいと感じておりますので、よろしくお願いいたします。

【経営、企画分野】

○地域協働について

(問) 市ホームページのアクセスが増えているとのことですが、広報こうなんはそのホームページからダウンロードできますので、そうすると逆に紙での配布はもういらぬのではないのでしょうか。また、広報以外の情報発信もインターネットを使った周知に切り替えていってはどうかと思っております。

(答) インターネットについては、まだ全ての市民が活用しているとは考えておりませんので、紙による配布も必要であると思っております。しかし、確かに今の時代インターネットはとても重要であると認識しておりますので、広報だけでなく色々な情報を掲載してまいります。

(問) 主な成果として「NPO・ボランティア団体数について、少しずつではあるが着実に増加していること」を挙げていますが、実際に活動に参加している人数は増えていない印象があります。防犯パトロールも初めは80人ぐらいの方が参加していましたが、現在は40人ほどになっています。一般の方にももっと周知徹底をして、意識を持ってもらえるような方法を考えていただくようお願いしたいと思っております。

(答) 現在全ての小学校下において、ボランティアという形で大変多くの方が子どもを支えてくださっています。そういう方が減少しているというご指摘ですが、学校からもお願いしてボランティアの人数を維持していきたいと思います。子どもたちが安心して生活できるよう、地域で支えていければと考えております。

○行政経営について

(問) 名古屋市で、市民税 10%減税が恒久化される事態が発生した場合でも、江南市の市民税は、今まで通り徴収されるのでしょうか？

(答) 現在の計画では、市民税の減税を実施する予定はありません。

高齢化率の上昇などにより、社会保障費は増える状況にあって、市民税の減税は、現実的な施策として難しいものと考えます。また、財源不足を補う目的で交付される地方交付税を受けながら、一方で、市民税を減税することは、矛盾した施策であると考えます。

各種事業経費の見直しや、新たな財源の確保など健全な財政運営に向けた努力を継続してまいります。依然厳しい財政状況が続くことが予想されますので、市民の皆さんのニーズに合わせた行政サービスを行っていくためにも、ご理解とご協力をお願いします。

○行政事務管理について

(問) 選挙の投票率について、江南市はいつもおよそ 60%程度だと思います。投票率をもっと向上させるために、どのような方法を考えていますか。

(答) 選挙は私たちの生活をどのようにしていくかを定める重要なものですので、市民の皆さんに関心を持っていただくことが大切だと考えております。現在、選挙公報や市の広報、広報車による啓発など、いろいろな努力をいたしておりますが、今後も投票率アップのためのPRに努めていきたいと思っております。

○議会運営への支援について

(問) 10年後の地域のすがたには、「市民にわかりやすい開かれた活力ある議会運営を行っている。」とあります。議会だよりなどで活動報告を行い、開かれた議会運営に努めているのもわかります。目標については矢印で表示してありますが、具体的に数値化をしてどのくらいまで水準を高めるのかを目標に掲げるべきだと思います。また、議員定数の削減、議員の給与について今後どのような方向性があるのか教えてください。

(答) 今回の「江南市戦略計画における目標達成状況把握のための市民調査」で「議会活動が市民にわかりやすく説明されていると感じる市民の割合」が平成 19 年度の 18.6%から平成 22 年度実績値 28.0%に大きく向上しました。平成 17 年度より議会改革検討委員会の中で、議員 24 名の中から選ばれた 8 名の代表の方が議会改革の方向性や改革の実施に取り組んでいます。議会の会議録や映像中継については、市のホームページで状況を確認できるようになっています。また、市の広報で詳しくお知らせしています。今後も議会改革検討委員会の中で、市民の皆さんにより多くの情報を流せるように努力していきます。また、各党派の方が地域に向いて議会報告活動などに取り組んでいただいています。議員定数については、昨年 9 月の議会で定数を 24 名から 22 名にすることに決まりました。4 月に行われる次の選挙からは 22 名の議員で議会運営がされます。

(問) 江南市も、名古屋市のように議員報酬の減額等、議員ボランティア化について、検討して頂きたいと考えておりますが、その点についての考えをお聞かせください。

(答) 議会を構成する議員は、市民の代表として、皆さんの意見を行政に反映させ、市政の方向を決める重要な役割と、執行機関の監視機能を担っています。

地域主権が叫ばれる昨今、市議会議員には従来の審議・監視能力に加え、政策立案能力も必要であり、議会の場での議論に向け、日頃の情報収集や分析に相当の時間を費やし、より専門性が求められています。

このように、重責を有する議会の議員は大切な仕事であり、ある程度の報酬は必要と考えます。高い使命感や志さえあれば、報酬が安くても務まるはずだという理論が先行しますと、私財を蓄えている人や、兼業で生活費を賄える人が議員になりやすくなり、幅広い層からの優秀な人材が集まらなくなる恐れが生じることが懸念されます。

また、名古屋市の議員報酬は、約 1,600 万円を半分の 800 万円まで下げるかどうか焦点ですが、江南市の議員報酬は約 788 万円です。

議会も、議会改革検討委員会を組織し、インターネットによる質疑の状況の配信や、広報で議会状況を掲載すること、また議員定数の削減など、自ら議会改革に取り組んでおり、このような動きも踏まえて議論すべきであると考えます。

5. 住民説明会に関する意見、質問

(問) 住民説明会の冒頭で、「ここでの意見を聞いて今後の 3 年間に反映する」というお話がありましたが、その割に質問時間が 15 分と短かったのは納得がいきません。

(答) この説明会は、計画の見直しを行った結果を報告する場であり、いただきましたご意見については、更に次回の見直しにおいて参考にさせていただきたいと考えております。なお、質問時間が短くなったことにつきましては、運営の仕方に配慮が欠ける場所があったものと反省をしております。

(問) 10回開催した説明会に、合計何人が参加したのですか。

(答) 1,241人の方にご参加いただきました。前回、平成19年7月に開催したときの参加者は1,401人でしたので、約150人減少していますが、これは前回に比べ寒い時期であったことや、開催日が地域の集会と重なった会場があったことなども影響したと考えております。

今後もこのような説明会を開催する際には、できるだけ多くの方に参加していただけるようPRをしていきたいと思っております。

(意見) せっかくの機会ですので、インターネットで結構ですから、今日の意見を公開してほしいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

6. 市政一般について

○施設利用について

(問) 老人福祉センターについて、個人で大広間を使いたいと思っても、クラブなどのグループに押さえられていて使えません。

また、布袋ふれあい会館の浴場については、無料なので市外から来ている人がとても多いと聞いていますが、こういう状況をどのように考えますか。

(答) 老人福祉センターについては、管理運営を委託しております社会福祉協議会と早速協議していきたいと思っております。

布袋ふれあい会館の浴場については、ご指摘のとおり現在は無料であり、市外の方にもご利用いただけますが、今後使用料につきましては検討していきたいと考えております。